

Oberhofen, Switzerland 9.10.2020

2020年10月9日 スイス・オーバーホフェン発

FOR IMMEDIATE RELEASE

F I S MEDIA INFO

フッ素化ワックス禁止の適用は 2021-22 シーズンから

FIS 評議会は、「フッ素化ワックスの使用を禁止ためのワーキンググループ」の提案に基づき、フッ素化ワックスの使用を禁ずるルールの適用を 2021 年 7 月 1 日から始まる 2021-22 シーズンから延期すると決めた。

ワーキンググループの提案によると、今シーズンは、実験室及びフィールドでのテストなどに注力、また、テストプロトコル（検査手順の確率）を完成させながら、ステークホルダーなどが、円滑に検査機器を購入できる環境整備を図り、F I S 競技の全レベルにおいての使用禁止が適用されるようにする。

2019 年 11 月、FIS 評議会は、環境と健康に悪影響を与えることが科学的にも証明されているフッ素化スキーワックスの使用を 2020-21 シーズンからすべての FIS 競技種目において禁止すると決定しました。これは、2020 年 7 月から有効となる特定のフッ素化合物の製造物の使用を禁止する EU 規制に準拠するものであります。

FIS は、フッ素化ワックスの禁止を強く支持し、専任のワーキンググループを組織して、過去数か月間、テストデバイス（検査機器）の開発とテスト（検査手順）の実装に精力的に取り組み、全ての種別に対しこの規則の施行が 2020-21 シーズンの始まりに間に合うように取り組んできた。

先週、FIS は、スタートとフィニッシュで検査行為ができるようにスキーやスノーボードからフッ素を検知するために設計されたハンドヘルドフッ素トラッカーシステム（携帯用フッ素検知システム）をテストすることができました。これらのテスト中に使用されたデバイスセンサーがスキーの滑走面から測定されたフッ素値の標準誤差は 1 パーセント未満

であり、フッ素を正確に測定するデバイスの能力を確認しました。

検査には、測定機器の精度に関わらず、テスト、または測定エラーの潜在的な原因となり得る条件整理が必要となり、全ての競技種別とその環境において公正で一貫した結果を保証するために更なる検査機器のテストと設計調整が必要です。

例えば、（操作調整ミスなどによる）オペレーターエラーは、均一化されたデバイスのヘッドセンサーの標準化などは機器の設計改善の必要性が考慮されるほど重大であることも観察されました。最初の 1,500 回ものテストでは、さまざまな種類の滑走面の素材、構造、そして、滑走面のチュンナップ（ストラクチャー造りなど）に影響される測定エラーを排除するために追加のセンサーの必要性を示しました。また、テストは屋内の実験室で行われたため、屋外での周辺光度、温度、そして気象条件なども測定機器の一貫した動作を保証する考慮条件も必要です。すべての分野のテスト手順の実装を目指して更に時間を掛けて、適切な方法での準備やテストを適切に管理しながら、2021 年春に利用可能にはフッ素測定器を全 FIS レベルで使用できるように目指します。

それまでは、すべてのステークホルダー（利害関係者）は、フッ素化ワックスとフッ素代替品の使用についての法律や各種規制に従って頂きたい。

フッ素測定機器の実装が遅れてはいるが、FIS はその全てのレベルと種別において「フッ素フリー競技（フッ素が使用されない）」と公正で一貫した競技会を早く実現させるために 100%コミットし（全力で取り組み）続けます。

About FIS (FIS について)

FIS は、国際的なスキーとスノーボードの統治機関であり、1924 年にフランス・シャモニーで開催された最初のオリンピックの会期中に設立されました。FIS は、国際オリンピック委員会 (IOC) の認証を受け、オリンピック種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキー、スキージャンプ、ノルディック複合、フリースタイルスキー、そして、スノーボードの国際競技規則の設定を含むマネージメントをしています。その 132 加盟国を通じて、500 以上もの FIS スキーとスノーボードの競技会が毎年開催されます。特に若者のためや健康的なレジャーレクリエーションとしての雪の活動を促進します。詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

www.fis-ski.com